

主要産地における平成26年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第1報（8月28日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成26年8月28日）

全 国 ・ 道 府 県	収穫量（早期栽培等）				作 況（早期栽培等）			作 柄（平年比較）		品質概況等		参 考		
	予想収穫量	前年産 収穫量	前年産収穫量 （確定値）との比較		作況指数 26年産	作況指数 25年産	前年産 との比較 対 差	作柄の良否	登熟の良否	26年産水稻う るち玄米1等米 比率 (26年7月末)	25年産水稻う るち玄米1等米 比率 (25年7月末)	生産数量目標		
			対 差	対 比								平成26年産	前年産との比較	増減率
全 国	t	t	t	%					%	%	t	t	%	
全 国										77.0	64.7	7,650,000	▲ 260,000	▲ 3.3
北 海 道							良	平年並み				554,140	▲ 18,800	▲ 3.3
青 森							やや良	平年並み				247,000	▲ 12,220	▲ 4.7
岩 手							やや良	平年並み				275,540	▲ 10,810	▲ 3.8
宮 城							やや良	平年並み				362,630	▲ 18,140	▲ 4.8
秋 田							やや良	平年並み				433,040	▲ 13,390	▲ 3.0
山 形							やや良	やや不良				358,570	▲ 15,630	▲ 4.2
福 島							やや良	平年並み				348,420	▲ 7,440	▲ 2.1
茨 城							やや良	やや不良				341,550	▲ 7,340	▲ 2.1
栃 木							平年並み	平年並み				309,330	▲ 12,220	▲ 3.8
埼 玉												152,680	▲ 3,920	▲ 2.5
千 葉							やや良	平年並み				249,280	▲ 6,420	▲ 2.5
新 潟							やや良	やや不良				535,640	▲ 10,030	▲ 1.8
富 山							平年並み	やや不良				192,340	▲ 3,920	▲ 2.0
石 川							平年並み	平年並み				126,400	▲ 3,000	▲ 2.3
福 井							平年並み	やや不良				128,130	▲ 5,230	▲ 3.9
長 野							やや良	平年並み				196,640	▲ 7,760	▲ 3.8
滋 賀							平年並み	やや不良				163,380	▲ 7,000	▲ 4.1
兵 庫												181,930	▲ 6,010	▲ 3.2
岡 山												160,190	▲ 5,850	▲ 3.5
広 島												130,130	▲ 4,270	▲ 3.2
山 口												110,820	▲ 5,530	▲ 4.8
愛 媛												74,490	▲ 1,690	▲ 2.2
高 知	35,300	36,200	▲ 900	97.5	99	98	1	平年並み	平年並み	53.3	39.7	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3
福 岡												184,380	▲ 6,860	▲ 3.6
熊 本										84.7	71.2	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9
宮 崎	38,300	38,100	200	100.5	102	100	2	平年並み	やや不良	89.0	67.5	94,470	▲ 4,660	▲ 4.7
鹿 児 島	24,300	25,300	▲ 1,000	96.0	103	104	▲ 1	平年並み	やや不良	60.7	65.9	111,540	▲ 3,980	▲ 3.4

	品質概況等	備考
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	全農県本部等の地域生産振興と販売力強化に向けた取組み等（ホームページ公表資料の取り纏め）
北海道		<ul style="list-style-type: none"> <li>「北海道水田農業ビジョン」に基づき水張面積の拡大に取り組むとともに、稲作所得の向上や北海道米の安定的な需要確保に向けた施策を推進する。</li> <li>共販体制の強化や実需者との契約取引の拡充を図るとともに、消費者ニーズに対応した商品開発・販促企画により道産農畜産物のブランド力を高め、有利販売に努める。</li> </ul>
青森	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒石「つがるロマン」の籾殻は、籾長、籾幅及び籾長×籾幅ともに平年並み。十和田「まっしぐら」の籾殻は、籾長は平年並みだが、籾幅がやや小さく、籾長×籾幅は平年よりやや小さい。（8月20日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米穀の収穫前契約による安定的取引の拡大（44.820％、前年比108％）</li> </ul>
岩手		<ul style="list-style-type: none"> <li>実需者の早期見える化に向けた、播種前契約の拡大（25年産主食うるち米82.262％、前年比105％）</li> </ul>
宮城		<ul style="list-style-type: none"> <li>水田フル活用に向けた、25年産米の集荷率向上と契約栽培の取組強化（複数年・播種前・収穫前契約数量142千％、前年比134％）</li> </ul>
秋田	<ul style="list-style-type: none"> <li>県全域で斑点米カメムシ類の発生量が多い。8月19～21日調査（県内100地点）において、発生地点率は34％（平年20％）が高かった。今後、斑点米被害の多発が予想される。（8月22日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米穀の播種前・収穫前契約における3者契約・複数年契約の数量拡大（29.244％、前年比101％）</li> </ul>
山形	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育診断圃では、㎡当たり籾数は平年比100～109と平年並～やや多い状況。（8月26日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つや姫」の安定した高品質・良食味生産体制の確立とブランド化推進（26年産6.692ha、前年比103％）</li> </ul>
福島		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産者にとって作りやすい品種特性（耐倒伏性、品種収量安定性）の啓蒙を通じた米の県オリジナル品種「天のつぶ」の作付拡大（約2,000ha、前年比252％）</li> </ul>
茨城		<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふくまる」（県オリジナル品種）の作付推進（354ha、前年比3,078％）、および「はるみ」（全農オリジナル品種）の作付推進（106ha、前年比183％）</li> </ul>
栃木	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月上旬の発生程度は、葉いもちはやや少なく、縞葉枯病は多かった。（8月22日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理にこだわり、新鮮なお米、安全なお米、おいしいお米をお届けします。</li> </ul>

	品質概況等	備考
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウンカ・ヨコバイ類は、防除を徹底したため、本虫の発生は少なく、両病の発生も多発した昨年より少なくなっている。(8月26日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>J・A・T・A・Cとの連携による、大規模生産者対応を中心とした米の集荷拡大(206戸(前年比176%)、集荷数量5,655㌧(前年比183%))</li> </ul>
千葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月下旬の発生量と気象予報(気温:並か高、降水量:並か多)から予想される、向こう1か月間の発生量は、いもち病(穂いもち)は並、紋枯病はやや多、斑点米カメムシ類(カスミカメムシ類)は多、ヒメトビウンカはやや多となる見込み(8月12日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担い手への品目提案、技術指導、販売提案などによる生産振興対策の支援強化(実需者提携米53ha(前年比379%))</li> </ul>
新潟		<ul style="list-style-type: none"> <li>米の担い手との契約栽培による農家経営安定と集荷拡大(13,185㌧、前年比420%)および需要の安定確保に向けた大口需要者との複数年契約の実施(4,170㌧、新規)</li> </ul>
富山		<ul style="list-style-type: none"> <li>富山米ブランドの確立に向けた、販売促進キャンペーンの実施による産地精米の拡大(10,634㌧、前年比109%)</li> </ul>
石川		<ul style="list-style-type: none"> <li>石川県産米の需要確保に向けた播種前・収穫前契約の実施(30,570㌧、前年比93%)および輸出用米(新規需要米)の販売拡大(91㌧、前年比456%)</li> </ul>
福井	<ul style="list-style-type: none"> <li>コシヒカリの収穫日は9月8日、あきひかりの収穫日は9月14日と予想。</li> <li>台風11号の影響により、8月10日前後に出穂期を迎えた圃場で褐変病の発生が目立つ。(8月26日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コシヒカリのふるさとを誇りに、安全でおいしいお米を福井から全国へ。</li> </ul>
長野	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦部の「あきたこまち」は、8月26～27日頃には収穫可能。(8月25日付)</li> <li>成熟期は昨年より早く「昨年並」が予想される。(8月26日付)</li> <li>8月上旬の調査結果では、葉いもちの発生は全般に平年に比べ「やや少～少」、斑点米カメムシ類は全般に平年に比べやや少ない発生であった。(8月22日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産者の人々が土づくりからこだわり、丹精込めて作られた長野米は、最新設備の工場徹底した品質管理のもと、全国各地にお届けしています。</li> </ul>
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> <li>イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>8月18日～19日の調査では、早生品種の穂いもちの発生ほ場率は50.4%と高く、発生量は、やや多い。また、気象予報では、向こう1か月の気温は低く、降水量は昨年並、日照時間は昨年並または少ない見込みであることから、穂いもち(中生・晩生品種および晩穂)の発生量が多いとの予報。(8月26日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近江米のブランド方向上に向けた主力品種としての新品種「みずかがみ」の育成・拡大(815㌧、新規)、および輸出販路の開拓(2㌧、新規)</li> </ul>
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>いもち病(穂いもち)と縞葉枯病の発生は昨年並(一部やや多)の予報。(8月14日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「集荷決起大会」および「ほんまもん山田錦需要拡大イベント(東京)」の開催等によるグレードアップ兵庫県産山田錦の取組強化(11,650㌧、前年比104%)</li> </ul>
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>8月18～19日の巡回調査におけるトビイロウンカの発生圃場率及び株当たり虫数は、県下全域で昨年より高く、過去10年で最も高い数値である。さらに、一部の圃場では増殖率の高い短翅型雌成虫を確認している。8月下旬～10月中旬に県下全域で多く発生すると予想される。(8月22日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実需者ニーズに即した酒造好適米の生産拡大(1,684㌧、前年比111%)</li> </ul>

	品質概況等	備考
広島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>・8月21日～25日の調査結果は、穂いもちはやや多く、斑点米カメムシ類は平年並の発生。向こう1か月の気象予報では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みであり、9月上旬までの予報では、穂いもち(中生種)が多く発生する見込み。(8月28日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の多収性品種「あきさかり」を新たに追加した、JAグループを挙げた米頒布会の実施(頒布19,524件、前年比104%)</li> </ul>
山口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>・8月5日～7日の調査では、葉いもちの発生ほ場率は平年の約1.7倍、発病率は平年の約2.6倍で平年に比べ多かった。8月中旬～9月上旬の穂いもちの発生は、県下全域で多い見込み。(8月15日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫前契約、用途別結び付き玄米販売の拡大(収穫前契約22,800㌧、前年比103%)</li> </ul>
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>・8月の定点調査における普通栽培水稲の葉いもちは、発生ほ場率が平年の3.1倍となり広範囲の発病が確認されている。ただし、平均発病度は平年並であり、病勢進展はみられていない。1か月予報(8月21日発表)では、降水量は平年並であるが、1週目(8月23日～29日)の気温は低く、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており発病には助長的である。(8月22日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の新奨励品種「にこまる」の生産集荷拡大(集荷1,030㌧、前年比335%)、および品質向上に向けた実証試験(施肥体系、栽植密度)の実施(県下10地区)</li> </ul>
高知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1等米比率の維持・向上に向けた、高温と日照不足に対応した高品質米生産の基本技術の徹底(共計1等米比率24%、前年26%)</li> </ul>
福岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>・8月5日調査の結果、葉いもちの発病率及び発生ほ場率は平年より高く、発病率72%の多発ほ場も一部にみられた。発病率19.0%(平年5.05%)、発生ほ場率83.3%(平年28.7%)。8月下旬以降も、いもち病の発生に適した雷雨天の気象条件が続くと予想され、県内全域で穂いもちの多発が懸念される。(8月22日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消・食育の取組強化に向けた学校給食米の一元供給および金のめし丸県産米「元氣つくし」の作付拡大(4,260ha、前年比112%)</li> </ul>
熊本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に応じた売れる米づくりの推進。</li> </ul>
宮崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>・コシヒカリの玄米の外観は、地域差はあるものの、全体的に光沢、粒ぞろい、粒形は良好である。白未熟粒の混入は全体的に少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入はやや多く、地域による差がある。胴割粒及び被害粒の混入は比較的少ないが地域により差がある。死米の混入はやや多く、これも地域による差がある。着色粒は全体的に散見される程度である。(精米工)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国における農地の集積・集約化や米をはじめとする農業政策、県でのフードビジネス推進への取り組みなど、各種政策に対応するとともに事業環境の大きな変動に柔軟な対応をしていく。</li> </ul>
鹿児島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネいもち病の発生拡大が懸念されることから、イネいもち病防除の徹底について通知。(農水省 8月21日付)</li> <li>・コシヒカリの玄米の外観は、光沢は地域によりかなり差はあるが、粒ぞろい及び粒形は良好である。白未熟粒の混入は全体的に少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入は地域により差がある。胴割粒及び被害粒の混入は比較的少ないが地域により差がある。死米の混入はやや多く、これも地域により差がある。着色粒は全体的に散見される程度である。(精米工)</li> <li>・穂いもちの発生が県内全域でやや多いと予報。斑点米カメムシ類の発生が、県内全域で出穂期以降やや多いと予報。(8月27日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模稲作農家との品質基準に基づく4社契約取引の拡大ならびに行政と一体となった非主食用米の産地化推進。</li> </ul>

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：備考欄のイタリック体はホクレン農業協同組合及び全農本部等のホームページで公表されている資料を基に取り纏め。ゴシック体は全国農業協同組合連合会のホームページで公表されている資料から抜粋。

注3：(精米工)とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル(玄米)を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。

## 参考資料

平成26年産米の農産物検査結果(速報値/平成26年7月31日現在)(農林水産省)、  
平成25年産米の農産物検査結果(速報値/平成25年7月31日現在)(農林水産省)、  
平成26年産水稻の8月15日現在における作柄概況(農林水産省)、  
平成26年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省)、  
平成25年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、  
平成26年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、  
イネいもち病防除の徹底について(農林水産省 消費・安全局)  
玄米品質概況(平成26年産)(一般社団法人日本精米工業会)

平成26年水稻作況(穀穀調査)((地独)青森県産業技術センター農林総合研究所)、  
平成26年度農作物病害虫発生予察情報注意報第5号(秋田県病害虫防除所)、  
おいしい米づくり情報第11号(庄内総合支庁)、  
病害虫発生現況情報(栃木県農業環境指導センター)、  
病害虫防除情報(埼玉県病害虫防除所)、  
平成26年度病害虫発生予報第5号(千葉県農林総合研究センター)、  
平成26年度作物技術普及情報17号・栽培技術情報(松本農業改良普及センター)、  
8月上旬の水稻巡回調査結果の概要等について(長野県病害虫防除所)、  
稲作情報No.16(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会)、  
平成26年度病害虫発生予報第9号(滋賀県病害虫防除所)、  
平成26年度病害虫発生予察予報第4号(兵庫県病害虫防除所)、  
平成26年度病害虫発生予察注意報第3号(岡山県病害虫防除所)、  
平成26年度病害虫発生予察情報予報第7号(水稻)(広島県西部農業技術指導所)、  
平成26年度農作物病害虫発生予察警報第1号(山口県)、  
平成26年度病害虫発生予察注意報第2号(愛媛県病害虫防除所)、  
警報第1号 いもち病(穂いもち)の発生について(福岡県病害虫防除所)、  
平成26年度病害虫発生予報第6号(9月)(鹿児島県病害虫防除所)

ホクレン農業協同組合連合会ホームページ、JA全農とちぎホームページ、JA福井県経済連ホームページ、  
JA全農長野ホームページ、JA熊本経済連ホームページ、JA宮崎経済連ホームページ、JA鹿児島県経済連ホームページ、  
都府県本部による国産農畜産物の販売力強化に向けた取り組み(全国農業協同組合連合会ホームページ)